21. 海上自衛隊潜水医学実験隊において治療を行った減圧症患者の最近の傾向と問題点

伊藤正孝　鈴木信哉　松永　毅
岡野真道　和田孝二郎　妹尾正夫
大岩弘典
（海上自衛隊潜水医学実験隊）

【目的】最近の減圧病患者の傾向と問題点を把握するため，当施設で治療を行った症例を検討した。

【対象】平成2年8月から平成5年7月までの3年間の減圧症30例（男性26例，女性4例）を対象とした。

【結果と考察】1．30例の内訳は，民間潜水作業員6名（20%），レジャーダイバー21名（70%），自衛隊員3名（10%）であった。病型の内訳はI型減圧症17名（57%），II型減圧症13名（43%）で，延べ55回の高圧酸素治療が実施された。

2．発症から受診までに経過した日数は0日～17日（平均3.8日）で，早期治療が実施できた例では良好な予後が得られた。U. S. Navy 治療 Table 7を用いて著明な改善がみられた重症例もあった。

3．症例のなかには9名（30%）のインストラクターが含まれており，発症の原因をみてみると，いくつかの問題点が考えられた。

4．ダイビングコンピューターによる減圧での発症が4例（13%）あり，いずれも繰り返し潜水が行われていた。

5．患者の潜水場所は，東京湾，沖縄，サイパンなど様々であり，航空機を使用することも多く，これによって発症した例もみられた。

【結語】当隊における潜水疾患症例の検討によりインストラクターの減圧症，ダイビングコンピューターの使用，航空機の利用などに関していくつかの問題点が指摘された。